

桜ヶ丘 いまむかし

第4回 森を持つ住宅地桜ヶ丘と原峰公園

桜ヶ丘住宅地東側、旧鎌倉街道に面してなだらかな登りに森があります。やがてゆう桜ヶ丘の建物（桜ヶ丘コミュニティセンター・桜ヶ丘児童館）、桜ヶ丘1丁目に至ります。

この森に原峰公園があります。かつて狼谷戸と言われた、狼が出るほど寂しい山が、今は桜ヶ丘地域の大切な場所の一つとなった【原峰公園】を探ってみました。

原峰公園の歴史

旧鎌倉街道をはさんでこの辺一帯は、昔から関戸と言われ、遠い昔は霞が関という関所がありました。1333年に鎌倉幕府と新田義貞が戦った関戸の合戦の際、鎌倉街道を見張る砦がある重要な拠点でした。今も城壁の斜面など昔の面影が残っています。



1976年（昭和51年）に、ここに桜ヶ丘第二児童遊園が開園しました。その後1984年（昭和59年）に都市公園法による児童公園として、【原峰公園】と名称を改めました。

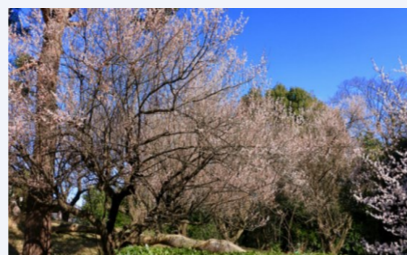
1990年～91年（平成2～3年）に周辺の土地を所有していた嵯峨山氏・猪俣氏・須藤氏・岬氏の方々の協力を得て、多摩市が区域を拡張し、公園として整備しました。

もともと、この森は数名の地主の私有地であり、雑木林を使った椎茸の育成、木炭の製造、梅などの果樹園があり、山からは湧水、下流には田んぼもあったそうです。現在もその姿が残っており園内には梅、栗、枇杷、ミカン等の果樹、せせらぎから流れる池もあります。



関戸の小山酒店店主のお話によると、子どもの頃、この山を登って金毘羅宮に行くのが恰好の遊び場であったとか。多摩市役所側の谷には湧水のきれいな川があり、蛍が見られ、周辺の井上家、岬家などの水田があったそうです。

そのもっとも昔はこのあたり朝鮮からの人々の集落があり、遺跡からの出土品もありました。「きっとみ里」と呼ばれていたそうです。



「原峰の会」設立の経緯

（實会長のお話）

昔、息子と遊んだ原峰の雑木林があまりにも荒れ果てていたのを目にし、何とかしたいと多摩市公園緑地課のホームページを見て、森林ボランティア活動を知りました。講座の研修に参加し、伐採、萌芽、下草刈等、人の手を加えることで森が生き返ることができる事を知りました。活動に参加して、改めて人の結びつき、自然の魅力にふれ、ここ原峰公園を中心にして、地域の交流が深められたら良いと考え【原峰の会】を設立しました。

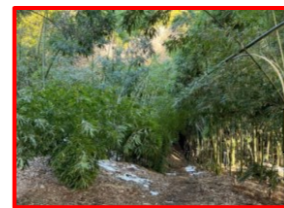
「原峰の会」の取り組み

地域の緑の育成と保全活動を通し、自然と共生する街づくりを地域の人々で作りあげることがを目的に2024年4月多摩市との協定を結びました。現在桜ヶ丘在住の17名を中心に活動を行っています。活動内容は「原峰通信」を発行しています。原峰公園内掲示板にも掲載しています。



こんな活動しています！

園路整備



雪害で竹が園路覆う



竹を伐採し 園路を確保



放置され壊れた八つ橋



全撤去
(釘・板分類、市で回収)

園路整備(公園課と共に)



枝が折れ危険な木は



危険木あり
頭上注意
表示を付け
公園課に
伐採依頼

園内の草花の育成整備



補助金で花壇設置



シヤガの花壇

せせらぎの整備



かいぼり、泥を掻出し



排水溝の竹囲い



池の淵の囲い



梅の剪定

写真提供：原峰の会

